



「平均寿命 90 歳・職業人生は 70 歳まで」の時代がやってくる

① 「平均寿命 90 歳・職業人生は 70 歳まで」の時代がやってくる

将来皆さんが壮年から高齢者となっていく頃には、日本人の平均寿命は 90 歳、職業人生は 70 歳まで続く時代になっている可能性が高いのです。

A I (人工知能) による医療 (ガンが発見など) はすでに始まっていますが、今後 A I は加速度的に進化し、人類がガンを克服する時代が来るかもしれないのです。

厚生労働省の調査によれば、平成 27 年の日本人の平均寿命は 女性が 87.0 歳、男性は 80.8 歳です。わずか 100 年前は男女ともに 45 歳程度でした。同省の推計によれば、現在の高校 3 年生が 60 歳になる 2060 年の平均寿命は女性が 90.9 歳、男性が 84.2 歳です。

② 超高齢社会の先頭を行く日本

人口学の定義では、65 歳以上の高齢者の割合が 7% 以上の社会を「高齢化社会」といい、14% 以上の社会を「高齢社会」と呼びます。すでに日本の高齢化率は 26% で世界一です (アメリカは 15% でしかない)。推計では 2060 年には 40% になります。人類が経験したことのない「超高齢化社会」。

現在は 15 歳から 64 歳までの生産年齢人口が 2.4 人で 1 人の高齢者の暮らしを支えています。2060 年には 1.3 人で 1 人の高齢者を支えることになります。現在水準の医療や年金の社会保障は持続不可能でしょう。誰もが 70 歳まで (あるいはそれ以上?) 働き続けて「支える側」に回らなくてはならないでしょう。

③ モデルのない時代を行く日本

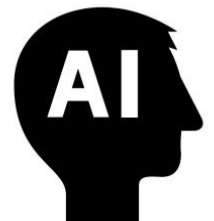
そんなわけですから、日本社会は今後どのようにしていけば上手くいく (あるいは持続できる) のか?? というモデル (お手本・正解) は、残念なことに世界のどこを探しても存在しないのです (戦後の高度成長は欧米諸国をお手本にして、日本の優秀な官僚たちが成長のグランドデザインを描いてきましたが…)

昨今言われるようになった「新しい学力観」も、そういった社会の壮大な変化に対応した必然なのです。

④ 無くなる仕事?

イギリスのオックスフォード大学で A I などの研究を行うマイケル・A・オズボーンは、2014 年に発表された「未来の雇用」という論文の中で、「今後 10~20 年程度で約 47% 程度の仕事が自動化される可能性が高い」と述べています。

もうすでにスーパーマーケットでは自動レジが普及していますよね。無人のコンビニも登場しています。つい先日は「感情を持ったロボット」の記事が新聞に出ていました。これらは加速度的に普及していくことでしょう。



⑤ 時代や社会がどう変化して生きていける人間像とは?

一言でいえば、「周囲の環境や情報を分析し、それを自分の頭で考え、自分の言葉で表現し、他者と協働しながら仕事ができる人」です。これまでの時代よりもさらに深い学びが必要となります。

物事を覚えたり理解したりという基本的な作業の重要性は変わりません。その上に、様々な状況のなか自分の頭で考えて判断していく能力が重要になってくるのです。さらに言えば「独りよがり」もダメです。他者とコミュニケーションして協働する能力が重要なのです。

思い返せば、古代ギリシアの哲学者アリストテレスも、「人間は社会的な動物である」と言っていました。前号の進路だよりで私は、「デジタルに振れすぎた時代だからこそ原初的な行為が価値を持つ」と書きましたが、結局のところ今号でも同じ事が言えると思います。

⑥ どんな時代になろうとも…

人と人がふれあい、対話することの大切さは変わりません。皆さんも、自分の将来の進路に関しての悩みや疑問は、どんな小さな事でも気軽に先生に相談して下さいね。歓迎します。一緒に考えていきましょう。